

1. 主な取組内容・事例検討内容等

○ 防災

【取組み】北区の地域性に応じ、障害者に焦点を充てた取組みを目指した。今年度はコロナ渦で人数制限もあり支援者のみでの検証になったが、避難所での物品(段ボールベッド、間仕切り、簡易トイレ等)を体験することで障害者の避難所での困りごとを話し合い、持ち出し袋(持ち出さずしても普段から欠かせないもの)を障害別で検討した。

【効果】協議会の場へ実際に区域の防災計画を推進する自治推進課にも入ってもらい、障害のある方が災害時に困ることや必要な事を伝えることができた。

【残された課題】「当事者へ発信」や「当事者と話し合う機会」が必要であり、今年度防災ワークを開催するために集めた情報の整理に加え、検証したまとめを「当事者へ発信するきっかけにできるもの」に残せたらと考えている。また制作過程にも当事者の意見を聞きたい。

○ 高齢者機関との交流

【取組み】より現場の担当者レベルでの交流が必要ではないかと協議し、例年行っていた協議会とケアマネ連絡会との勉強会・交流ではなく、指定相談連絡会と基幹型包括・地域包括との交流会を行った。65歳移行時や、介護保険非該当になった事例、介護保険と障害福祉サービス併用している等の具体的な事例を挟み意見交換した。

【効果】介護保険と障害福祉サービスの違い、例えば同じホームヘルプサービスでも内容に違いがあることが共有でき、移行時に当事者に伝えていく具体的な情報が得られた。また、65歳移行時のケアマネ探しには包括支援Cでも相談できると確認できた。

【残された課題】高齢機関側のさらに現場で活躍するケアマネとの顔繋がりができ、より65歳時に介護保険にスムーズに移行できるよう、介護保険と障害福祉サービスの違いをケアマネとも共有し当事者にも伝えていけるように圏域など小さな単位で勉強会などができれば良いのではないかと考えている。

○ その他

課題共有、検討の場が書面開催により優先順位の協議が不十分であった。今後、共有された課題(2に記載)から区域、市域で検討する内容を整理し、市協議会で挙げると共に、コロナ渦でも会議開催できる体制を区域で整えていきたい。

2. 北区が課題と捉えていること

- ・防災に関して今年度防災ワークを開催するために集めた情報の整理に加え、検証したまとめを「当事者へ発信するきっかけにできるもの」に残し、市域にも共有したい。
- ・障害福祉サービス側には圏域の意識は低いが、より身近な地域(地域包括圏域)での高齢機関側の現場で活躍するケアマネとの顔繋がりができ、より65歳時に介護保険にスムーズに移行できるよう、介護保険と障害福祉サービスの違いの共有や、障害福祉サービスも含めたケアプラン事例、移行時の連携事例の共有などを行う必要がある。
- ・コロナの影響でサービスの变化やサービス量の減少による課題がある。通所事業所の在宅支援によるもの、利用者または支援者が濃厚接触者になった場合のPCR検査結果待ちまでのサービス利用できない等である。
- ・学齢期の地域校に通学する障害児やボーダーの子どもについて課題共有がなされにくいという意見が挙がっている。
- ・世代を超えて世帯支援をする場合、関係機関の連携について。